

三菱コジェネレーションシステム

増元茂喜*
西山佳久**

要 旨

現在，世界経済の目覚ましい発展に伴い，地球環境保護がクローズアップされ，急速に省エネルギーや自然エネルギーの活用の機運が高まっている。

また一方，電力やガスの規制緩和の進展とあいまって，コジェネレーションシステム(CGS)や新エネルギー(風力，太陽光，燃料電池)活用等の分散電源の導入が加速されてきている。この中で，三菱電機は，太陽光，風力，CGS等の分散電源事業を積極的に展開し，省エネルギー，環境保護に対する取組を強化してきた。

当社は今まで，分散していた組織を統合し，エネルギーソリューション&サービスセンター(ESSセンター)を本年4月に設立した。ESSセンターでは，CGSを主体とした熱電併給システムやその熱源を利用するシステムを主体に，

エネルギーに関するトータルエンジニアリングにより，工場やビルなどの省エネルギー，CO₂削減に取り組んでいる。

本稿では，この中で，CGSに焦点を当て，当社の取組について述べる。

- 三菱電機のエネルギーソリューションサービス事業(ESS事業)の取組体制
- CGSの標準パッケージ，原動機別レパートリーの紹介
- 瞬低対策，低NO_x化等のCGSの応用システム例についての紹介
- 三菱電機kWリース方式であるESS事業形態の概要



コジェネレーションシステムの導入例

コジェネレーションシステムとして納入した現地写真である。左上はディーゼルエンジン，右上はガスエンジン，左下はガスタービンに対応したコジェネレーションシステムの設置例である。右下はこれらの制御装置の一例である。